スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 三重県 志摩市


自 治 体 名 ： 三重県志摩市
担 当 課 名 ： 生涯学習スポーツ課
電 話 番 号 ： ０５９９-４４-０３３９

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 178.95 ㎢ |
| 人口 | 44,019 人 |
| 公立中学校数 | 6 校 |
| 公立中学校生徒数 | 901人 |
| 部活動数 | 38 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 推進計画準備中<br>ガイドライン策定済 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

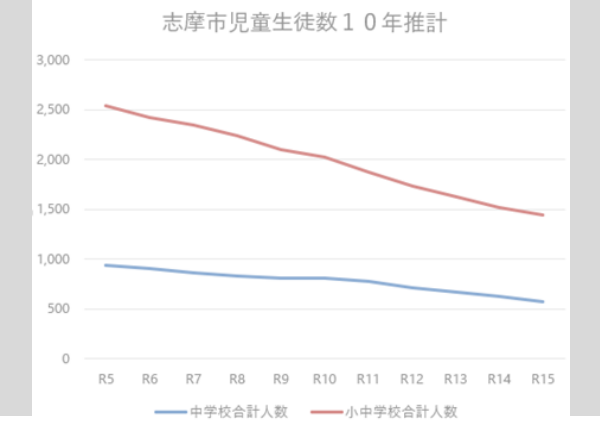
志摩市には、中学校が6校あり、今後生徒数推移としては、令和7年度には900名を下回り、令和10年度以降はさらに減少傾向が進むとされている。

現在市内には6校38部活あるが、令和9年度には5校となる方向で進んでおり、中学校によっては生徒数に応じ、運動部活動８種目、文化部活動2種目の計10種目選択肢のある学校もあれば、運動部のみ2種目しかない学校もある状況である。

当市は半島地域にあり、5町が市町村合併で市になった経緯があるため、中学校が点在しており、拠点を設けて活動する際も「移動時間」や「移動手段」が1番の課題となっている。

また、学校部活動と地域クラブ活動の大きな違いとなってくる「受益者負担」に関しても保護者の理解がなければ、前述の課題と合わさることで、より休日の地域クラブ活動に取り組む子どもの減少につながることが懸念される。

「指導者確保」についても、総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、市スポーツ少年団など各種団体と連携して資格や研修会等課題に取り組む必要がある。




令和　6　年度市内中学校(1・2年生) 部活動所属状況　2024年7月30日現在

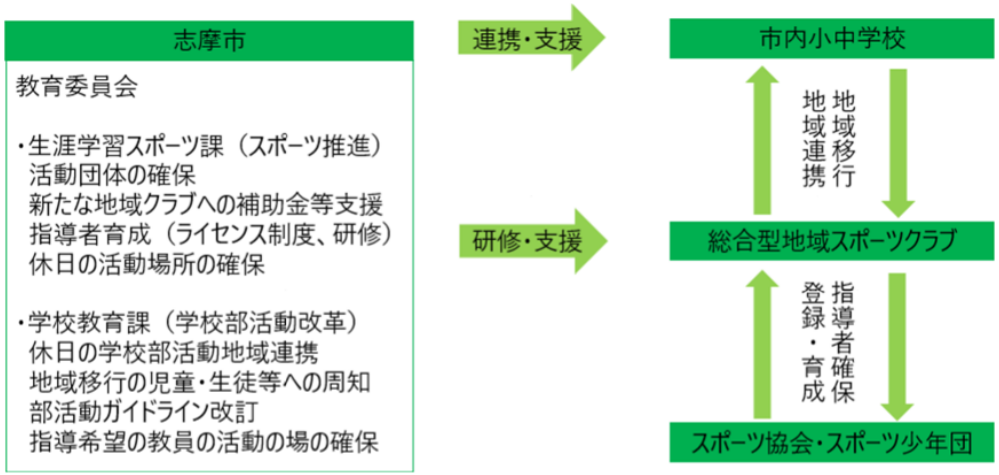
| 令和 6 年 7月現在 | 志摩中学校 | | | | 大王中学校 | | | | 東海中学校 | | | | 文岡中学校 | | | | 浜島中学校 | | | | 磯部中学校 | | | | 市内競技別部員数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1年 | | 2年 | | 1年 | | 2年 | | 1年 | | 2年 | | 1年 | | 2年 | | 1年 | | 2年 | | 1年 | | 2年 | | |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 野球 | 0 | 0 | 7 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 10 | 0 | 2 | 1 | 7 | 0 | 10 | 0 | | | | | 9 | 0 | 6 | 0 | 58 |
| サッカー | | | | | | | | | | | | | 6 | 0 | 8 | 0 | | | | | | | | | 14 |
| バスケット | 7 | | 5 | | | | | | 8 | 8 | 3 | 9 | 3 | 4 | 9 | 3 | | | | | 6 | | 11 | | 76 |
| バレーボール | | 4 | | 4 | | 5 | | 7 | | | | | 3 | 6 | 12 | 7 | | | | | | 6 | | 8 | 62 |
| 陸上 | 7 | 4 | 5 | 5 | | | | | | | | | 9 | 8 | 7 | 8 | | | | | 3 | 2 | 1 | 4 | 63 |
| ソフトテニス | | 4 | | 4 | | | | | | 9 | | 3 | 10 | 15 | 4 | 5 | 3 | 2 | 2 | 3 | | | | | 64 |
| 卓球 | 7 | 3 | 3 | 5 | 5 | 3 | 10 | 4 | 13 | | 9 | | 3 | 4 | 18 | 9 | 5 | 2 | 4 | 1 | | | | | 108 |
| バドミントン | | | | | | | | | | | | | 0 | 14 | 0 | 12 | | | | | 1 | 1 | 2 | 3 | 33 |
| 柔術 | 0 | 9 | 0 | 5 | | | | | 0 | 5 | 0 | 4 | 1 | 6 | 1 | 7 | | | | | 3 | 7 | 1 | 1 | 50 |
| ブラスバンド | | | | | | | | | 1 | 7 | 1 | 5 | 2 | 16 | 3 | 11 | | | | | 2 | 5 | 0 | 4 | 57 |
| 男女別合計 | 21 | 24 | 20 | 23 | 6 | 8 | 13 | 13 | 32 | 29 | 15 | 22 | 44 | 73 | 72 | 62 | 8 | 4 | 6 | 4 | 24 | 21 | 21 | 20 | |
| 学年総計 | 45 | | 43 | | 14 | | 26 | | 61 | | 37 | | 117 | | 134 | | 12 | | 10 | | 45 | | 41 | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）




### ●行政組織内での役割分担

**◉教育委員会（生涯学習スポーツ課・学校教育課）**

・活動団体の確保
・新たな地域クラブへの補助金等支援
・指導者育成（ライセンス制度、研修）
・休日の学校部活動地域連携、地域移行の児童、生徒等への周知
・指導者を希望する教員の活動の場の確保
・休日の活動場所の確保

**◉首長部局**

・予算措置

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | 地域移行（サッカー）活動開始 |
| 令和６年８月 | 第1回学校部活動在り方検討会開催 |
| 令和６年９月 | アンケートの実施（小中学生） |
| 令和６年１０月 | 第2回学校部活動在り方検討会開催 |
| 令和６年１１月 | スポーツ等体験会開催 |
| 令和７年２月 | 第3回学校部活動在り方検討会開催 |
| 令和７年３月 | 事業管理用報告・成果報告 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 6 校 | 実施した地域クラブ総数 | 1 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 1 クラブ（6 部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0 クラブ |
| 全体の指導者数 | 11 人 | 全体の運営スタッフ数 | 1 人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目<br>※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般社団法人クラブ志摩 | 総合型地域スポーツクラブ | サッカー | 月３回程度 | 9:30～11:30 | 小６　１人<br>１年　４人<br>２年　21人<br>３年　６人 | R6.4.1～R7.2.28 | 志摩市長沢多目的広場 | 11 人 | １人 | なし | 中体連：地域クラブ |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●現状市内中学校で活動しているスポーツ系10種目文化系2種目にプラスして事前アンケートで希望が多かったダンスを含めた11種目について、小学４～6年生と中学１～２年生を対象に体験会を実施。生徒児童約80人、保護者と指導者合わせて約120人ほどが地域移行後の休日の活動を体験しイメージすることができた。

# 2.実証内容と成果

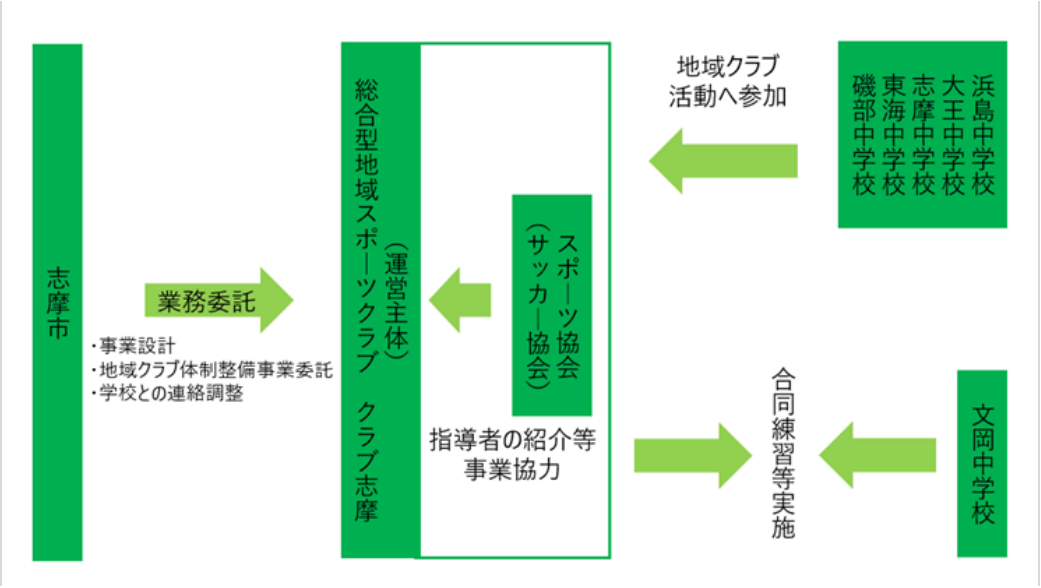
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●一般社団法人　クラブ志摩　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | サッカー |
| 運営団体名 | 一般社団法人　クラブ志摩 |
| 期間と日数 | サッカー：４月１日 ～ ２月28日<br>月３回程度 |
| 指導者の主な属性 | 総合型地域スポーツクラブ登録指導者 |
| 活動場所 | 志摩市長沢多目的広場 |
| 主な移動手段 | 自転車、公共交通機関、保護者送迎等 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 39,000円（クラブチーム登録し、試合に出場する場合） |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●クラブマネージャー

役割：指導者の派遣やスケジュール管理、経理、各所連絡調整を行う

●主任指導者　３名

役割：基礎・対人トレーニングやゲーム形式などのメニュー構成を行う

●指導補助者　８名

役割：主任指導者の指揮のもと練習メニューの補助を行う

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

学校部活動の地域連携・地域展開を進めるための中心的な役割を担うコーディネーター等を配置し、関係団体・市・学校等の連絡調整・指導助言等を行うとともに、運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材確保などの組織体制の整備を行い、地域と学校が連携した持続可能なスポーツ活動の基盤を築き、子どもたちが多様なスポーツに親しめる環境の整備に取り組む。

#### 取組の成果

コーディネーターについては、関係団体・市・学校等との連絡調整、助言指導を行い、課題解決に取り組んだ。
また志摩市学校部活動在り方検討会を３回開催し、部活動ガイドラインの改定や専門部を設置するための検討会設置要領の改定を行ったり、児童生徒へアンケート調査を行い体験会実施に取り組んだ。

#### コーディネーターの具体的な動きの実績

総括的コーディネーターとして、行政職員と教員から教育委員会に出向してきている職員がスポーツ団体や学校等との連絡調整や指導助言を行い、令和７年度から新た地域スポーツクラブ（野球）の立ち上げのサポートを行った。

#### 今後の課題と対応方針

現在は、サッカー１種目をモデルとして取り組んでいるが、学校部活動が現状ある部活動については、地域移行することで生徒たちに多大な負担がかかることが予想されることから、志摩市学校部活動在り方検討会において、しっかり方向性を示していく必要がある。

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保**

### 取組事項

スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、指導者を確保する。
また県の人材バンク等の支援も活用して指導者確保に努める。

### 取組の成果

現在取り組んでいるサッカー種目については、指導者の繋がりやサッカー協会やスポーツ少年団など関係団体を通じて連携し、確保することができた。
また、クラブも積極的に指導者にライセンスを取得させるなど、質及び量の確保に努めた。

### 今後の課題と対応方針

今後、受け入れ団体によって指導者の質や量の確保はばらつきが出てくる中で、ある一定の水準を定めていく必要があると考えるが、資格まで求めるとなると、指導者確保が困難になる種目も出てくることが危惧される。
指導経験や実績、講習会・研修の受講など、指導者を確保する上での多角的な水準設定を検討することや、資格取得に係る費用助成等の支援のほか、意欲がある人材を指導者の補助として積極的に活用するなど、指導経験を積ませる機会を提供することも重要となる。
各競技団体と緊密に連携し、各競技の特性に応じた指導者像、水準を検討していく。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化**

### 取組事項

スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、競技基準やルールの改正、コンプライアンスなど、情報共有できるよう連携する。

### 取組の成果

学校部活動の地域連携・地域展開を進める上で不可欠となる関係団体・分野との連携強化を図るため、スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、競技基準やルールの改正、コンプライアンスなど、情報共有を行った。

各種団体における競技基準、ルール、大会開催方法等が多岐にわたっている現状を踏まえ、子どもたちが地域クラブ活動に参加しやすくなるよう、これらの情報を把握し各種団体との連携を強化することを目的とした。

具体的には各種団体の代表からなる「志摩市学校部活動在り方検討会」を情報共有の場とし、現状把握、課題提起ほか、意見交換を行った。

### バス等の運行実績

実施していない。

### 今後の課題と対応方針

各競技団体による基準やルール設定、大会開催など各競技によって様々であることから、子どもたちが関わりやすくなるよう把握していく必要がある。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実①**

**取組事項**

市内の学校にある競技等の部活動ができる環境を確保し、新たなニーズへの対応など、様々なスポーツに親しむ機会創出に取り組む。
小学４～６年生・中学１～２年生に市内の現状部活動を知り、体験することで保護者や指導者も含め、将来の休日スポーツ活動の姿をイメージしてもらう。

**活動の詳細**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加人数 | 約80人 | 指導者数 | 約20 人 |
| 属性 | スポーツ等体験会 | | |
| 具体的な内容 | 小学４～６年生・中学１～２年生の希望者を対象に市内の中学校で行うことができる運動部８種目文化部２種目と事前アンケートで希望が多かったダンスについて、総合型スポーツクラブやスポーツ協会・スポーツ少年団に指導者をお願いして体験会を開催。 | | |
| 子供の声 | ● ずっとやりたかった吹奏楽の楽器が吹けてうれしかった。<br>● 初めてだったけど、最後には完ぺきにできたので楽しかった。<br>● 運動できて楽しかった。<br>● 教え方も上手でたくさんできたので楽しかった。 | | |
| 関係者の声 | ● 部活が減り、やりたい・やってみたい部活がなく今回のような体験会があってありがたい。<br>● やりたい種目を転校しなくても、休日だけ参加できるようになっていってくれるとうれしい。<br>● 休日部活動の地域移行に関して認知が少ないために参加人数が少ないと感じた。<br>● こういった体験会を通じ、多くの競技に参加してくれる小中学生が増えると感じた。 | | |
| 運営経費 | 今回スタッフ及び指導者についてはすべてボランティアで実施。 | | |

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実②**

### 取組の成果

参加した小中学生80人及びその保護者を対象としたアンケートの結果、回答者の94%が満足と回答。個別の会場や日程・時間、指導者についても90%以上が満足と答え、今後もこのような体験会に参加したいかとの問いにも89%がそう思うと答えた。
参加人数については、対象の６%弱とかなり少なく、周知の際の説明不足もあるが、中学生については既に部活動に加入しており、地域移行も令和８年度以降ということで意識が低く参加に繋がらなかったと感じた。

### 今後の課題と対応方針

今後の課題としては、参加者やその保護者からは満足度が高かったが、参加人数がかなり少なかったため、次年度も開催するとなった際には、丁寧な周知文の作成が必要と感じた。
また、今回は志摩市で１箇所での開催としたが、志摩市学校部活動在り方検討会でも課題として挙がっている移動時間や移動手段がネックになった可能性もあり、やはり地域移行後に活動する場合は志摩市で拠点１箇所では難しいと感じたため、休日だけでも市内の中学生が同じだけの部活動種目を選択できる環境整備に向けて複数拠点で検討していく必要がある。

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等**

### 取組事項

公平な費用負担や民間企業等からの寄付など、多角的な財源確保の在り方について検討を行う。

就学支援世帯等とその他世帯との費用負担の格差が生じないよう、不公平感のない受益者負担の制度設計を行うほか、地域展開による費用の増加が懸念されることから、民間企業等からの支援協力についても検討を進める。

### 取組の成果

志摩市学校部活動在り方検討会の委員に商工会長を選任し、経済団体を通じた連携・支援等を想定し、連絡調整できるように取り組んだ。

会議でも常に費用面の課題があがるが、常に地元経済団体としても支援を前向きに検討していく旨の発言をしてもらっている。

### 今後の課題と対応方針

地域移行が進むことで必要経費は増大することから、民間企業や経済団体からの支援協力は必要である。

また、就学支援を必要とする世帯とその他の世帯との費用負担の差など不公平感のない受益者負担を検討しなければ、活動に取り組む子どもがさらに減少する恐れもあり、慎重な制度設計が求められる。

多様な財源確保の推進と支援制度の具体化に向けた検討を進めるとともに、公平性を考慮しつつ、誰もが気楽に活動に参加できるような受益者負担の制度設計に取り組む。

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　キ：学校施設の活用等**

### 取組事項

学校施設や備品等を地域移行後のクラブが活動を実施する際の利用ルールを策定する。

### 取組の成果

地域展開の実施に関連する費用負担の軽減に向けた保護者からの具体的な要望に対し、総括コーディネーターとしてクラブと学校の間に入り調整を図った。

令和7年度から地域スポーツクラブ（野球）が立ち上がるが、廃部となる学校の野球部が所有していた備品や道具を譲渡してもらい、地域展開に係る初期費用やランニングコストを軽減したいとの保護者からの要望があった。この要望に対し、総括コーディネーターとして、地域スポーツクラブ（野球）と学校の間に入り具体的な調整を行った。

### 今後の課題と対応方針

現在は学校部活動と地域移行が混在し、施設利用の優先順位や既存の備品使用など学校ごとのルールの違いがある中、市全体としてのルールを設定する必要がある。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

志摩市の今後の生徒数は全国の過疎地域と同様、減少の一途をたどり、現在６校ある中学校は将来的的には統廃合せざるおえない状況になると考えられるが、地理的な要因もあり一足飛びにはいかず、段階的に進めていくこととなる。そのような環境の中、市内の中学生が平等に種目を選択することができるよう、志摩市学校部活動在り方検討会の場で議論を重ねているが、移動手段や移動時間・受益者負担や指導者の確保など課題が山積しており、解決策も見いだせない状況であるのが実情である。

### ●成果の評価

今年度については、スポーツ等体験会を開催できたことが大きな成果であり、多くの課題や反省点は出たものの、参加者や保護者へのアンケートでは満足度が高く、次年度以降再度実施する際には、今年度の課題や反省点を踏まえ、より良い体験会を開催できるものと考えられる。

また、地域移行には教員はもとより総合型地域スポーツクラブ・スポーツ協会・スポーツ少年団などが共通認識のもと進めていくことが重要であり、会議で各団体の代表が出席し議論はしているが、現場の指導者が体験会を通じ、将来の活動のイメージを共有できたことで、地域移行にかかわる関係者の意識を高められた。

### ●今後に向けて

今年度の志摩市学校部活動在り方検討会で要領の改正を行い、指導者部会の立ち上げを前提に専門部の設置を可能にしたので、来年度以降は指導者の質や量の確保については、指導者部会で重点的に協議できる体制をとり、関係団体や県の人材バンクとの連携を図りながら、取り組みを進めていく。

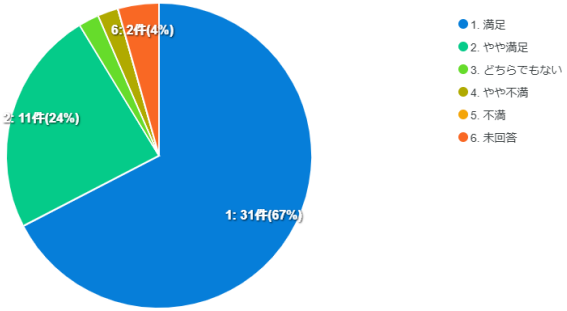
# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

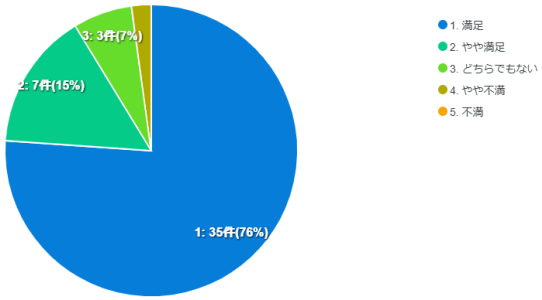
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

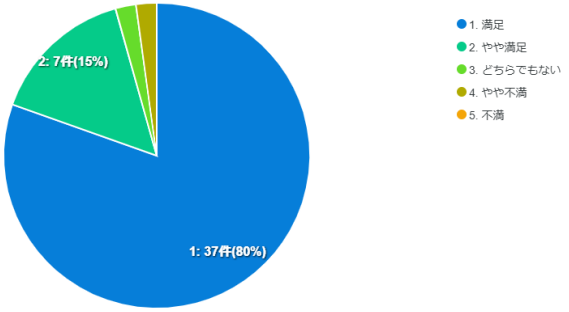
Q.体験会の取組みついて、どの程度満足いただけましたか。



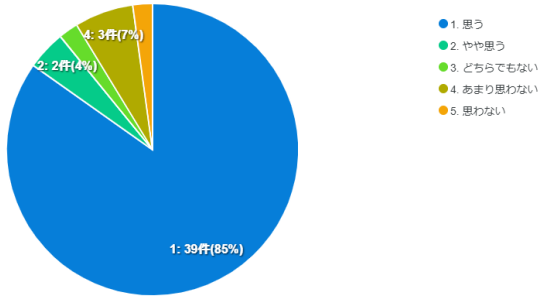

Q.体験会の日程や時間について、どの程度満足いただけましたか。




Q.体験会の指導者について、どの程度満足いただけましたか。




Q.今後もこのような体験会に参加したいか。




### ●参加者の声

**体験会参加者**

違う学校の子供達と交流ができて楽しかった。
すごく楽しくて、やさしく教えてくれた。
色々体験できて楽しかった。

**保護者**

子供たちが楽しそうにしていた。
丁寧に楽しく指導していただけた。
普段体育の授業だけなのでスポーツを体験できたのは子供にとってよかった。
ほかにもまわりたいところがあったようなので、もっと時間がほしかった。
学校も人数が少なく、子供も好きな部活を選べないので地域移行は良いことだと思うが、送迎が大変そう。

**指導者**

バレーボールのみ別会場であったため、移動する必要があったのはデメリットであった。
今回の体験会が何の目的で行われたのかもっと参加者に説明が必要であった。
志摩市の地域移行のビジョンが伝わってこない。
地域移行していく際には指導者は資格保持者が担うべきである。
地域移行に対しての予算措置はどうなっていくのか。

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

| 令和2年 | 令和３年 | 令和４年 | 令和５年 | 令和６年 |
|---|---|---|---|---|
| 総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会設置、検討開始 | 総合型地域スポーツクラブ「クラブ志摩」設立 | 地域クラブ活動の移行準備開始 | 総合型地域スポーツクラブ内容共有、活動拠点選定等 | 地域クラブ活動の地域移行モデル検証 |

●ステークホルダー
大王サッカースポーツ少年団
●経過
団員減少と大王中サッカー部　の部活動廃部
●実施にあたって生じた課題
大王地区だけでなく、阿児地区も総合型地域スポーツクラブがなかったことから、エリアカバーできるよう両地区を含めて設立を進めた。
●実施内容、工夫した点　等
設立準備会には、市、スポーツコミッションも入り、将来展望を含めて協議した。

●ステークホルダー
大王阿児地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会
●経過
サッカーをする子どもたちの受皿、環境確保
●実施にあたって生じた課題
大王・阿児地区のサッカー種目を希望する子どもたちの受皿になるだけでよいのか
●実施内容、工夫した点　等
総合型地域スポーツクラブが立ち上がるまで、市が介入して流れを作ることとした。

●ステークホルダー
志摩市教育委員会
●経過
総合型地域スポーツクラブが市内全地区をカバーできたことから総合型地域スポーツクラブ連絡会議を開催して協議
●実施にあたって生じた課題
スポーツ庁・文化庁からの提言による情報認知不足、指導者や地域クラブの受入体制ができていないこと
●実施内容、工夫した点　等
市の方針を情報共有し、部活動の今後の推移を検証した。

●ステークホルダー
志摩市教育委員会
学校部活動在り方検討会
●経過
サッカー種目をモデル事業として休日の部活動地域移行をモデル事業として実施・検証
●実施にあたって生じた課題
学校部活動は現行存続している部活動がほとんどで、移行期間を設けないと子どもたちが混乱を招くことから既存の学校部活動との受け渡し等調整が必要
●実施内容、工夫した点　等
学校関係者・保護者・経済団体・スポーツ団体などを検討会に取り込み、地域課題として地域で解決することと認識させた。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

